

特集

M-GTA その進化と展望

昨年、M-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）の集大成となる『定本 M-GTA——実践の理論化をめざす質的研究方法論』（弊社刊）が発刊されました。開発者である木下康仁先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科特命教授・立教大学名誉教授）に初めて弊誌で執筆いただいたのが GTA の紹介論文で、1990 年のことでした。そして 2005 年、弊誌で初めて M-GTA の特集を組みました。

以来 15 年、本特集では書籍の発刊を契機に、いま、あらためて M-GTA を考えたいと思います。木下先生には、これまでの長きにわたる研究と思索のあゆみと M-GTA のポイント、そして質的研究方法論としての展望と未来を語っていただきました。また、積極的な活動が続ける M-GTA 研究会の先生方による議論からは、M-GTA における「経験的学習」の重要性和 M-GTA に取り組む醍醐味を広く考えていきます。さらに M-GTA で研究に取り組まれた菊地真実先生（帝京平成大学）には、自らの研究経験を振り返り、M-GTA のキモとなる分析のプロセスについて掘り下げていただきました。

本特集を通じて、M-GTA という研究方法論の意義と魅力、そして質的研究方法論のあり方と未来を考えるためのヒントが見えてくるのではないかと思います。ぜひ書籍もあわせてご覧いただけると幸いです。

『看護研究』編集室

- ・木下康仁（1990）．解説 Grounded Theory の理解のために．看護研究，23（3），250-267．
- ・看護研究 38 巻 5 号（2005）．焦点 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチをめぐって．